

## デザインと福祉、アートと福祉と通じて ～女性デザインチーム、アンリヴの活動～



「アンコ アート プロジェクト」は、月3,300円でレンタル可。経費を除いた一部が障がい者アーティストの定期的な収入につながる仕組みです。

「山梨には、アートを得意とする人たちが多くいらっしゃいます。ぶどうや桃、富士山といった山梨ならではの作品を描く人も少なくありません。しかし、作品を発表できる場は限られているのが現状。その課題に向き合う中で、すでに他県で浸透している障がい者アートのレンタル事業にたどり着きました」。アンコ アート プロジェクトは、月額 3,300 円で県内在住の障がい者アーティストのアート作品をレンタルしてもらい、経費を除いた一部が、福祉事業所を通じてアーティストに支払われるという仕組み。開始からわずか1ヶ月で、すでに20社近くが申込みをしているといいます。「地域と福祉」をデザイン(アート)の力でマッチングすることで、障がい者の社会参画、共生社会、ニュービジネスなどにつながると考えています。マッチングすることがゴールではなく、より長期間つながっていくことが大切。近い未来、誰もが生きやすい社会になる一助になれば嬉しいです」と、堀内さんは新たな地域福祉の在り方について、日々発信を続けています。

「障がいを持つ人のやりがいや自信はもちろん、やがてこの活動が彼らの社会参画への大きな一歩につながると信じています」そう話すのは、障がい者アートのレンタル事業「アンコ アート プロジェクト」を発足させた「anlib(アンリヴ) 株式会社」の代表である堀内麻実さん。堀内さんは、長年携わってきた出版業界から独立し、4年前にデザインと編集を主にする会社を設立。「ある日、取材で障がい者やそのご家族と出会いました。そこで私は、「福祉＝私たちの暮らし(日常)」であることを目の当たりにしたのです。「福祉」というテーマを第三者がカジュアルに発信してくれたら…そう言われたことをきっかけに、今まで得たスキルを活かしながら『福祉』に向き合い、地域に発信することを始めました。それが、3年前に創刊した福祉をテーマに地域を伝えるフリーマガジン「anko(あんこ)」です」。

その後、介護や福祉、保育の現場で働く若い働き手のリアルな現場取材し、県内全ての高校に配布しているフリーマガジン「kaigoto(カイゴト)」の発行や、福祉事業所が制作した焼き菓子や雑貨ほか、素材等にこだわりを持った店の商品をごちゃ混ぜにして販売するセレクトショップ「annoan-暮らしのお店-(アンノアン)」、山梨県主催の障がい者アート普及事業「いえなか美術館」の運営など、現在その活動は多岐に渡ります。



初めの一歩となったフリーマガジン「あんこ」の表紙

PROFILE

**anlib**  
アンリヴ  
**anlib株式会社**

堀内 麻実さん  
甲府市貫川本町13-27  
info@anlib.co.jp

mami horiuchi

アンノアン  
**annoan -暮らしのお店-**

毎月第4日曜日  
10:00～15:00  
左記住所にて  
**OPEN!**

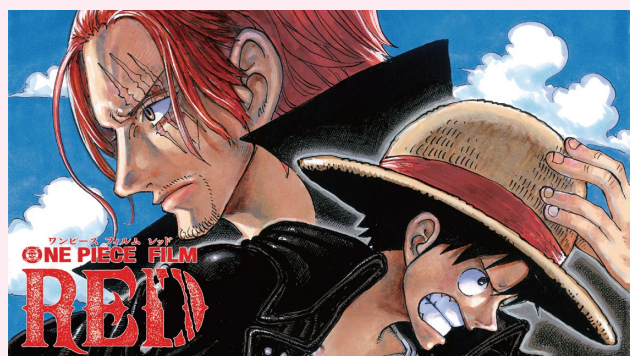
**いえなか美術館**

詳細は山梨県のHPにて  
https://www.pref.yamanashi.jp/shogai-fks/ienaka.html

**anko art project**

anko.art.projectの  
お問い合わせは▼

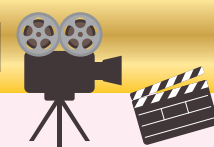
### 今月のTOHOシネマズ甲府情報



(C) 尾田栄一郎／2022「ワンピース」製作委員会



### 【ONE PIECE FILM RED】



公開日:2022年8月6日(土) イオンモール甲府昭和 2F

監督：谷口悟朗 声の出演：田中真弓、中井和哉、岡村明美、山口勝平、平田広明、大谷育江、山口由里子、矢尾一樹、チョー、宝亀克寿、名塚佳織、Ado、津田健次郎、池田秀一、山田裕貴、せいや(霜降り明星)、粗品(霜降り明星)

世界で最も愛されている歌手、ウタ。素性を隠したまま発信するその歌声は“別次元”と評されていた。そんな彼女が初めて公の前に姿を現すライブが開催される。

色めき立つ海賊たち、目を光らせる海軍、そして何も知らずにただ彼女の歌声を楽しみにきたルフィ率いる麦わらの一味たち、ありとあらゆるウタファンが会場を埋め尽くす中、今まさに全世界待望の歌声が響き渡ろうとしていた。物語は、彼女が“シャンクスの子”という衝撃の事実から動き出す。